

仙台若林区災害医療派遣報告

浜松労災病院

救急部部长 中山威知郎

4/4 から 4/7 日にかけて仙台若林地区の災害医療派遣へ参加してまいりました。今回の震災はご存じのとおり地震、津波、原子力発電所の津波被害に伴う放射能汚染など、今まで経験したことのないような規模の大災害です。

その範囲も広範囲であり、災害の復旧の程度もまちまちです。今回は仙台若林地区の災害医療派遣に関して報告します。

仙台は自動車専用道路が堤防となり、それから東側の太平洋岸の荒波地区が津波で壊滅してしまいました。したがって仙台市内の被害はさほどではありません。ライフラインも復旧し、我々が到着した日からガソリンは十分に供給されるようになりました。そのため市内は大渋滞を引き起こしていました。

ガスの復旧率が 40%程度でしたが、電気、水道は問題ありませんでした。被災された方は荒波地区の方たちばかりで、2000 人ほどが市内にある避難所での生活を余儀なくされています。物資は十分に供給され、食事も十分に供給されています。避難された方は、昼間は仕事に出かけ、夜は避難所に戻る形の生活をしています。また、家が使える人は家の片付けに追われています。従って、昼間はご老人ばかりが避難所に残っています。入浴も十分ではありませんが、非定期ですが温泉へバスが運行されていました。少しずつ生活を取り戻しつつあるような形です。

その中で我々の仕事は避難された方の健康管理ということになります。夜寝られない、鼻炎、風邪、インフルエンザなどが主訴でした。

インフルエンザはそれまでの先生方の管理が良く、高熱でインフルエンザが疑われた患者は他の部屋へ隔離され、インフルエンザは十分に管理されていました。個室隔離の人は寂しいかなと思いきや、広い部屋に一人なのでこっちの方が過ごしやすいとのことでした。確かに体育館に段ボールの敷居しかない状態ではプライバシーは存在せず、気遣いばかりで大変なストレスだと思います。

我々が訪れた時に、たまたま若林体育館では米兵の慰問演奏会が開かれていました。クッキーとキャンディーの入った袋を配っていましたが、これがアメリカンスタイルでしょうか。

若林地区は比較的安定はしているので、他の医療機関からの派遣の先生方は移動されており、いまだ 2000 人の避難所生活をしている方々の健康管理はすべて労災病院が担っている状態です。今後、仮設住宅ができれば少しずつそちらに移動され、避難所生活の方たちが減少してくるはずですが、いまだ仮設住宅が全く建設されておらず、しばらくは現在の状態が継続するものと思われます。従って労災病院の派遣も、しばらくは継続していく必要があると思います。

派遣に参加される方もそうですが、残っている方のご協力がないと派遣には参加できません。皆様のさらなるご支援をよろしくお願いいたします。

